愛情のハグパワー

マンガ ／ きびちゅー



わが家のすこやか日記

作　品

小学生部門

私の母は、夜おそくまで働き、土日も家にいないことがほとんどです。だから、私はいつもさみしいなと思います。母はよく仕事が行事とかぶって、参観日はほとんどお父さんです。でも、いつも帰ってきたら「ただいま」と、抱きしめてくれます。私は、それがうれしいです。忙しくて疲れていても朝早く起きて、朝食や弁当を作り、洗たくもして、私たちのことを一番に思ってくれています。母は、朝出かけるときも、抱きしめて「大好き」と言ってくれます。そうしたら私も一日がんばれます。母とのハグは、私のエナジーパワーです。

「わが家のすこやか日記」から学ぶ「夢育※ポイント」

安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実はほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）　中山　芳一

「愛情のハグパワー」（画：きびちゅー）

ここが夢育ポイント

海外の研究でも、ハグや抱っこといった身体的なふれあいが、子どもの安心感や健全な愛着関係を育むうえで大切であることが明らかになっています。もちろん、子どもの成長とともに、こうした関わりは、少しずつ言葉によるやりとりへと変わっていくでしょう。それでも、肌のぬくもりから伝わる安心感は、いくつになっても人の心を支えるものなのだと思います。「赤子は肌を離すな、幼子は手を離すな、少年は目を離すな、青年は心を離すな」という言葉が、埼玉県の秩父神社に掲げられています。子どもの成長に応じて関わり方は変わっても、「あなたのことを大切に思っているよ」というメッセージを届け続けることの大切さを、この言葉は教えてくれているのかもしれません。

※「夢育」とは、一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育。（岡山県教育委員会）